

会 社 名 北雄ラッキー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 桐生 宇優
 (コード:2747東証JASDAQ)
 問合せ先 取締役常務執行役員管理本部長
 山川 浩文
 (TEL. 011-558-7000)

2019年2月期第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異及び 通期業績予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ

2018年4月6日に公表しました2019年2月期第2四半期累計期間の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向や発生事実を踏まえ、2018年4月6日に公表しました2019年2月期通期業績予想の修正並びに特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年2月期第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異 (2018年3月1日～2018年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当り四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,935	217	225	135	106.80
今回実績 (B)	20,412	95	114	66	52.90
増減額 (B-A)	△522	△121	△110	△68	—
増減率 (%)	△2.5	△55.9	△49.1	△50.5	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2018年2月期第2四半期)	20,927	155	167	92	73.36

(注) 当社は、2018年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

当第2四半期累計期間の業績につきましては、平成30年7月豪雨等の影響や電気・ガス料金の値上げ及びパン・チーズ・納豆などの日用食料品の値上げが相次いでいることに加え、ガソリン価格上昇などの影響による消費者の生活防衛意識や節約志向の強まりもあり、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は、当初予想を下回る結果となりました。

3. 2019年2月期通期業績予想の修正 (2018年3月1日～2019年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	41,600	438	450	245	193.82
今回修正予想 (B)	41,100	380	400	110	87.02
増減額 (B-A)	△500	△58	△50	△135	—
増減率 (%)	△1.2	△13.3	△11.1	△55.1	—
(ご参考)前期実績 (2018年2月期)	41,711	407	430	164	130.09

(注) 当社は、2018年9月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 修正の理由

通期業績予想につきましては、当第2四半期累計期間業績が当初予想を下回ったこと及び「平成30年北海道胆振東部地震」を起因とする特別損失の計上（下記 5. 特別損失の計上について）もあり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は当初予想を下回る見込みとなり、上記のとおり予想を修正いたします。

5. 特別損失の計上について

(1) 特別損失の概要

2018年9月6日に発生しました「平成30年北海道胆振東部地震」及び地震発生直後の大規模停電の影響により、当社の大半の店舗におきまして、商品等のたな卸資産の被害及び建物の外装・内装等に損傷が発生いたしました。

店舗営業状況につきましては、地震発生当初は仮設営業や営業時間制限を実施しておりましたが、現在は、全ての店舗が平常通りに営業を行っております。

当該地震を起因とする商品廃棄に係る損失額・費用及び建物・設備等の修繕費用と合わせて1億77百万円を特別損失として、2019年2月期第3四半期累計期間において計上することといたします。

なお、損失額はあくまで現時点の試算値であり、今後の決算手続き等により変動する可能性があります。

(2) 業績に与える影響

上記の特別損失の計上による業績への影響等につきましては、上記「3. 2019年2月期通期業績予想の修正」の数値に含めております。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上